

舞踊の動作分析から得るもの

富士波 雄三

私は、昭和51年の第2回舞踊学会で研究発表の機会を持たせていただきました。4年前になると思いますが、いまでも同じ研究に明け暮れております。今回の私の研究発表は、対象を日本舞踊に置き、これを分析し、一つ一つの動作を取り出し、これを取捨選択してリズム体操に組み立てることにありました。この課程で次の諸点について説明いたします。

1. 採用しない動作

- 女舞の動作
- 首を振る動作
- 色気や思い入れのともなう動作
- 当て振りという動作

1. 採用した動作

- 素踊りの動作
- 生活の中の作業動作
- 私の創作動作

古式蒼然とした古典舞踊の中から地域的な同好グループの体力づくり、ストレス解消を目的とし、一方社会体育に適するエッセンスをぬき出して、私の心願しているリズム体操を導き出す努力をしたわけでありす。

現在の民謡踊りの動作を分析しますと、踊られている動作の90%以上は、日本舞踊の分析動作の中にあります。そこで、日本舞踊の動作の中にはないもの、12の動作を使って一つの民謡踊を構成してみました。動作の内容は、

- 4拍動作～4
- 2拍動作～2
- 8拍動作～2
- きまりのポーズ～1
- 手拍子～1

*民謡花笠音頭で演技します。(演技時間：1.30)

笠を持って動作するもの、これも日本舞踊の動作の中では、みられない動作で構成してみました。

動作の内容は、

- 4拍動作～3
- 2拍動作～4
- 1拍動作～1
- 8拍動作～1
- きまりのポーズ～3

*民謡相馬盆唄で演技します。(演技時間：1.30)

日本舞踊の動作は、歌詞や、曲の関係もあって拍動作としては、説明できません。私は、日本舞踊の動作分析から使えるもの約700の動作を選定しました。その中の66の動作を使って一つの日本の踊りをつくってみました。曲は、白鷺の城です。(演技時間約4分)

終りに舞楽の動作からヒントを得たものなど含めた基本的な動きを一つみていただいて、私の研究発表を終ります。曲は、秋田舟方節で演技時間は規定時間とともに終ることにします。